

数学科 教材研究のステップ

中部教育事務所 数学科担当

ステップ1

育成を目指す資質・能力を明確にする!

各内容の四角囲みの後には、目指す資質・ 能力の具体や指導のポイントが書かれて いますので読んでおきましょう!

学習指導要領(中学校解説算数編)や各校 の方針、計画を基に、本単元で「何ができる ようになるか」を明確にする。

C(1)一次関数

(1) - 次開散について、影学的な活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) - 次開教について理解すること。 (イ)事象の中には一次開設として疑えられるものがあることを知ること。 (タ) 二元一次方面式を開設を表す式とみること。 イ 次のような思力、判断が、表現力等を身に付けること。 (ア) - 次開教として捉えられるこつの設置について、変化や対応の特徴を見いだし、表、式、グラ: 相互に関連付けて考ま、投票すること。 (イ) - 次開教を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 数学編 P.117

ステップ2

育成を目指す資質・能力が身に付いた具体の子どもの姿を想定する!

育成を目指す資質・能力が身についた単元ゴールの子どもの姿(評価規準)を設定します。 さらに、問題解決の過程でどんなことが言えたり、書けたりできればよいのか、振り返りではどん なことを書ければよいのかを想定します。

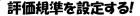
ステップ3

指導と評価の計画を考える!

☆単元ゴールの姿の実現に向けて、単元の学習活動を設定する

子どもの実態を把握する!

目の前の子どもの興味や関心、学習の定 着状況(レディネステスト等で確認)を把 握する。子どもの思考やつまずきを予想す ることで、全ての子どもがねらいを達成す るための手立てを考えておく。



単元のどこで何を見取るのか計画し、何が できれば、力が付いたといえるのか、具体的 の姿をイメージしましょう。「指導と評価の **一体化」のための参考資料も活用**しましょ う。

見方・考え方を働かせている姿を描く!

何に着目して、どのように考えていくの かを具体的に考えます。

*中学校学習指導要領解説数学編 P40~59 を参照



学びの系統をチェックする!

学習内容の系統性を確認すると、学び の連続性や関連性が見えてきます。学習 指導要領解説数学編の P.12 で同じ領域 の上下の学年を見比べてみるとわかりや すいです。

ステップ4 本時について考える!

問いの持たせ方、発問、教材・教具、提示の仕方、板書、適用問題など、 目の前の子どもの実態に応じて、子どもが主体的に取り組めるように考え ましょう。また、学習状況を見取る、振り返りの場面を設定しましょう。

提示の 教材 教具 板書 発問 適用問題 問いの 振り返り 持たせた

振り返りで学習状況を見取る! 授業後には・・・

本時で目指す資質・能力が身に付いているかどうかを子どもの振り返り の記述から見取り、授業を振り返りましょう。子どもの学習状況を毎時間 見取りながら授業改善のPDCAを回し、単元で育成を目指す資質・能力 を身につける授業づくりを実現しましょう!

板書には、子どもの問い やねらいに迫るキーワード を色を変えるなどして書き 残しておくと、何を学んだ か整理しやすいね。



